

平成26年度 第2回広報・広聴委員会会議報告

日 時 平成26年8月7日（木）13時30分～17時
場 所 藤沢市文書館 会議室
出席者 相京副委員長、櫛原、伊藤、吉原委員、
高木（事務局）
(欠席) 新藤委員長、五島委員

○報告・協議

(1) 報告

1 平成26年度第1回役員会について

- ・5月20日、広島県立文書館で開催された平成26年度第1回役員会の概要について、当日配布された次第をもとに事務局より説明した。
- ・平成25年度の委員会活動報告をした際、会誌の会報の使い分けや、会報のWEB配信の可能性について質問を受けたことを報告した。
- ・他に、組織検討ワーキンググループの経過報告などの要点について説明した。

2 予算の組み替えについて

- ・前回会議で提示した予算案に対し、次期委員会事務局への引継ぎに関して、在庫の送料などを計上すべきとの意見が出た。そこで、送料と旅費を合わせて11万6千円を追加要求し、役員会で承認されたことを報告した。

3 福岡大会の概要について

- ・役員会の席上、で大会・研修委員会から提案された大会の概要について説明した。もし同委員会から要請があれば、可能な範囲で大会運営の手伝いに携わることを確認した。
- ・第3回委員会は、11月14日(金)昼休みに、大会役員控室である「21世紀交流プラザI」の講義室Aで開催したい。実際に使えるかどうか、大会・研修委員会に確認した上で決定とする。

4 次期役員体制について

- ・広報・広聴委員会の次期の担い手を、現会長事務局が探してくれた結果、福井県文書館が有力候補となっており、同館から引き受けの条件が提示された。
- ・これを受けて会長事務局で、会誌の委託販売について、毎日学術フォーラムから見積もりをとってくれた。
- ・今後の進め方について、次の点を会長事務局と申し合わせておく必要がある。
 - ・福井県との交渉は引き続き会長事務局が窓口となってくれるのか。
 - ・当委員会として行う必要のある作業は何か。
 - ・会誌販売で、会の収入を減らさないためには値上げが必要だが、その手続きを

どうするか。

- ・刊行物の在庫管理は委託するかどうか。その見積もりはもらうのか。
- ・福井県の要望にある「実働的な委員体制」とは何をさすのか。
- ・会計事務の委託はまだ見積もってもらっていないのではないか。
- ・ホームページの管理はどのように行うのか。
- ・会誌の販路拡大のため、これまで購入してくれていない大学図書館にDMを送ってはどうかという意見が出た。

5 会報96号の進捗状況について

- ・内容は確定し、執筆者に依頼文を送付済みである。8月26日を締切とした。
- ・今号から、WEB公開できるように、再度その旨を依頼してはどうかという意見が出たので検討する。

(2) 協議

1 会誌『記録と史料』第26号の構成

○特集「アーカイブズの情報発信」

- ・今のところ、IT系の情報発信の事例について4本がほぼ固まってきた。
- ・藤沢市の「市民と作るウェブページ」について検討してもらったが、事例報告を書けるほどの実績がないとのことで、代わって子ども向けの紙媒体による情報発信についてなら書けると櫛原委員から提案があった。
- ・については、紙媒体によるユニークな取り組みについてもう1か所の事例を探して執筆を依頼することになった。各自引き続き事例を探すこと。

○論考

- ・すでに1本、投稿希望をいただいている。また国立公文書館の研修の修了論文からの転載について1本、内諾をいただいている。
- ・さらに研修の修了論文から、高松市の事例を転載してもらえるかどうか交渉する。

○特別寄稿

- ・5月ごろ日本経済新聞社の松岡資明氏に何か書いていただくよう内諾をいただいている。扱いは「特別寄稿」とし、記者の眼からみたアーカイブズを取り巻く最新動向などについて書いていただけるよう、あらためて事務局より願います。

○アーキビストの眼

- ・今のところ候補なし。もし論考の査読の結果、その基準を満たさないものがある場合、ここの原稿に回すことも可とする。

○世界の窓

- ・メリーランド大学プランゲ文庫が、海外機関として初めて全史料協機関会員となった。これを機に、海外機関が全史料協に期待するものは何かを書いていただけ

るよう交渉する。

- ・前に候補に挙がっていた、フィリピンの資料レスキューの話は見送ることにする。

○アーカイブズネットワーク

- ・太宰府市、三重県、相模原市、市民アーカイブズ多摩、常陸大宮市の5本は原案通り了承された。
- ・他に鳥取県の資料修復事業について伊藤委員が執筆することになった。

○書評と紹介

- ・原案の4本のほか、『歴史文化を大災害から守る』を吉原委員が執筆することになった。

○資料ふぁいる

- ・前回会議で候補に挙がっていた「公文書館機能整備の手引き」は、大部になること、調査・研究委員会がPDF版をWEB上に置く方針であることから、見送ることにした。
- ・『記録と史料』の総目次は、次号に載せたほうがタイミングは良い。したがって今号は候補がなく、コーナー自体を見送ることもありうる。

○会員刊行物情報

- ・エクセルによる新たな投稿フォーマット案が相京副委員長から提示され、協議の結果、これで進めることとなった。原稿の募集依頼文は会報96号に同封し、フォーマットはWEBからダウンロードしてメールで事務局へ送る方法とする。

(3) その他

1 刊行物のWEB掲載の方向性について

- ・会誌および会報の記事をWEB掲載する際は、著作権をすべて譲渡してもらう方法と、公衆送信権や複製権の行使のみを著者から承諾してもらう方法とがあり、他学会でもそれぞれの考え方のもと、いずれかを採用している。全史料協として前者の選択を強く主張する委員もいるが、委員会の他のメンバーはそれぞれのメリット、デメリットが整理しきれていないため、まずは他の学会の事情について情報を仕入れるとともに、法律の専門家にもアドバイスを仰ぐこととなった。
- ・いずれの方法になるにせよ、会報は96号から、会誌は25号から適用したいが、役員会の承認の兼ね合いもあり、開始時期は引き続き検討する。
- ・過去に遡っての掲載は、承諾手続きの手間を考え、当面は行わないこととする。

2 次回開催場所と日時

11月14日(金)12時15分より、

九州大学箱崎キャンパス理系地区21世紀交流プラザ I 講義室 A (予定)